



地域における福祉と多文化共生 —連携の必要性—

2023年6月16日

日本福祉大学名誉教授

石河久美子

近年の外国人移住者の傾向と実態

- 少子高齢化による日本人人口の減少に対して外国人人口は増加
- オールドカマーに比してニューカマーの増加
- 短期滞在から長期滞在、定住へ
- 地域の生活者としての外国人

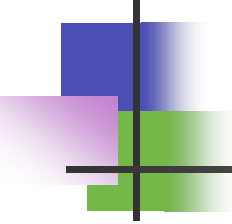


日本における多様な移住者たち

- 国際結婚家族
- 移住労働者家族
- 難民
- 中国帰国者
- 技能実習生
- 留学生

さらなる外国人労働者受け入れ

異なる文化の中で暮らす人々が抱える問題



- ・言葉の障壁
- ・文化・価値・習慣の違い
- ・サポートシステムの欠如
- ・社会システムの違いと情報不足
- ・望んだ移住か、望まない移住か



複雑化・多様化・深刻化する生活問題

- ・親子・夫婦のコミュニケーションギャップ
- ・ドメスティックバイオレンス
- ・国際離婚
- ・子育て不安・児童虐待
- ・不就学・不登校・非行
- ・高齢化
- ・コロナ



複雑化・多様化・深刻化する問題に対応するためには

- ・ソーシャルワークの支援の必要性
生活情報提供、日本語教育支援、
雇用体制の整備と共に、
ソーシャルワークの専門知識や
技術を導入したサービス・人材育成の
必要性



外国人への支援の現状

- 日本語教育支援者、外国人支援ボランティア、通訳等がソーシャルワーク的支援を実施
- 社会福祉支援者の、外国人も支援の対象であるという認識の不足
- 外国人の問題に専門的に対応出来るシステムが形成されていない。



ソーシャルワークとは

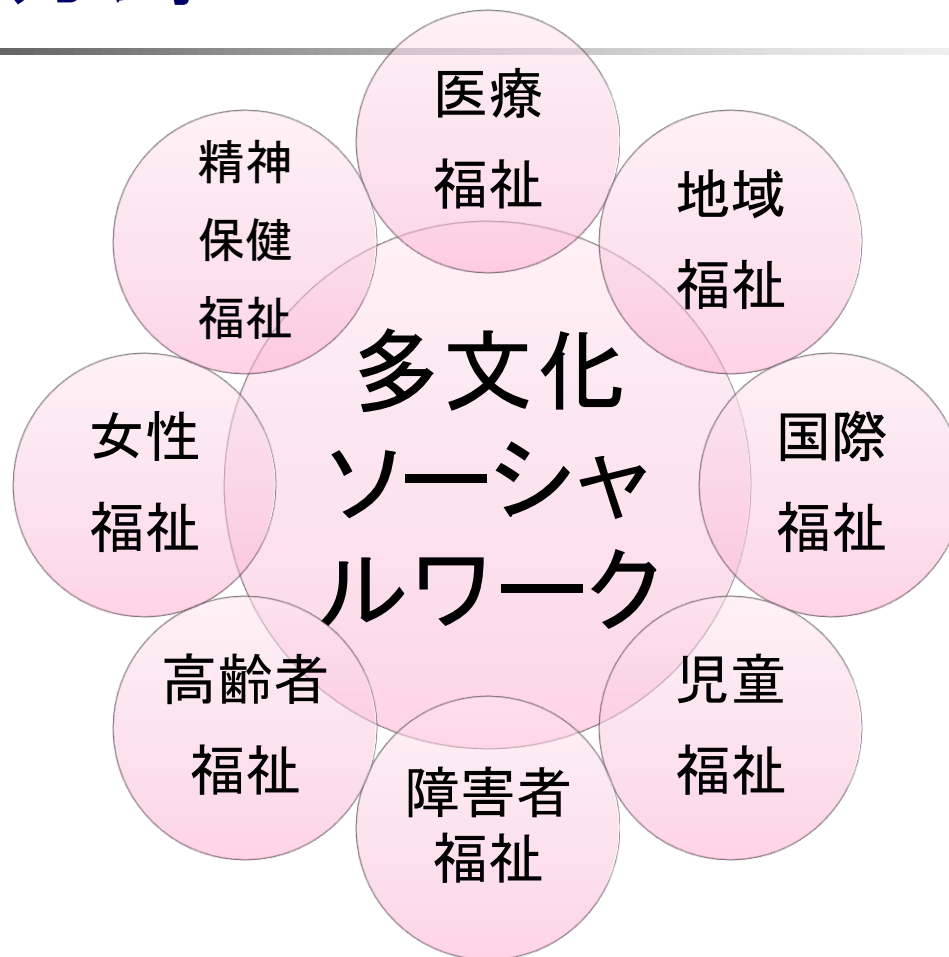
- ・人が問題を抱えている場合、問題解決に向けて「人」へ働きかけるだけでなく「環境」にも働きかける支援の方法
- ・問題を抱える個人、家族、グループ、コミュニティに働きかけるとともに、適切な社会資源やサービスに繋げる、もしくは社会資源そのものを開発する。必要に応じて、制度、政策そのものを開発していくための活動を行う。



多文化ソーシャルワークとは

- ・多様な文化的背景を持つクライアントに対するソーシャルワーク
- ・クライアントが自分の文化と異なる環境に移住、生活することにより生じる心理的・社会的問題に対応するソーシャルワーク
- ・クライアントとワーカーが異なる文化に属する援助関係において行われるソーシャルワーク

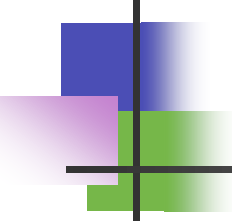
多文化ソーシャルワークの 実践分野





多文化ソーシャルワークの 実践の現状

- 多文化ソーシャルワーク実践者の不足
- 外国人は福祉専門職者に直接支援を求めず、福祉専門職者には外国人のニーズや問題が見えない
- 福祉専門職者の外国人の問題に対する認識不測と介入の立ち遅れ
- 外国人ケースの潜在化

- 
-
- 日本語教育支援者、外国人支援ボランティア、通訳等がソーシャルワーク的支援を実施
 - 福祉専門職者の外国人ケースの丸投げと外国人支援者の丸抱え—連携の困難さ



愛知県における 多文化ソーシャルワーカー養成の試み

- 都道府県レベル初の多文化ソーシャルワーカー養成講座を実施。2006年度—2011年度で108人の修了生を輩出
- 講座の目的
多文化ソーシャルワーカーとして在住外国人に支援を行っていく上で、**最低限必要な**知識や技術を体系的に習得することを目的とする



1) 外国人相談従事者への現任訓練

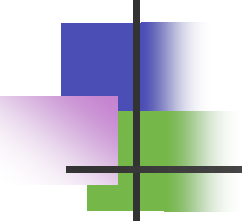
- ・複雑化・多様化する外国人の生活問題
に対応するためのスキルアップ
- ・実践智を基盤として行ってきた業務を
ソーシャルワークの枠組みで捉えなおす

2) 多文化ソーシャルワーカー養成講座 修了者の愛知県多文化ソーシャル ワーカーへの登用



養成講座対象者と内容

- 外国人相談業務もしくはソーシャルワーク業務経験者に限定し、選考。
- 募集人数15名、受講者18名（2006－2011年共通）
- 7週間42時間
- 基本的な専門知識、技術、方法、価値フィールドワークなど

- 
-
- 主たる講座対象者は、日本語教育支援者、外国人支援ボランティア、通訳等の外国人支援者＝多文化共生系支援者を想定
 - 実際には、医療ソーシャルワーカー、母子生活支援施設職員等の福祉系支援者も多く参加





多文化ソーシャルワーカー養成講座が もたらした効果I

- ・都道府県レベル初の多文化ソーシャルワーカー養成講座として注目
- ・他の都道府県・市町村への多文化ソーシャルワーカー研修の普及効果

多文化ソーシャルワーカー養成 講座がもたらした効果II

- 社会福祉系支援者と多文化共生系支援者の
の出会いーお互いの知識や経験を
共有、補完する学びの場
- 講座終了修了生が「あいち多文化ソーシャル
ワーカーの会」を結成、現在も活動継続
- 勉強会、情報交換会、多文化対応相談の
冊子作成など

福祉と多文化共生の連携に向けて



- ・福祉系支援者および多文化共生系支援者への多文化ソーシャルワーク研修の実施
- ・福祉系支援者と多文化共生系支援者の接点を作る
- ・福祉系支援者と多文化共生系支援者がお互いにコンサルテーションできる仕組み作り



参考文献

- 石河久美子『多文化ソーシャルワークの理論と実践—外国人支援者に求められるスキルと役割』 明石書店 2012年
- ・石河久美子『異文化間ソーシャルワーカー—多文化共生社会をめざす新しい社会福祉実践』 川島書店 2003年
 - ・石河久美子「在住外国人の現状と支援の課題—多文化ソーシャルワークの普及に向けて」『社会福祉研究』第120号、2014年
 - ・石河久美子「多文化ソーシャルワーカーの必要性—多文化共生社会をめざす社会福祉実践」『月刊福祉』第102巻4号、2019年
 - ・愛知県国際交流協会「相談窓口担当者のための多文化ってこういうこと—社会福祉編」 2018年

<http://www2.aia.pref.aichi.jp/sodan/j/manual/manual.html>